

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田中学校

### ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 《概要》

国語、数学、理科いずれも基本的な学力はおおむね身についております。しかし、平均正答率は滋賀県の平均にはとどきませんでした。「知識・技能」に関する問題は平均的な結果ですが、「思考・判断・表現」に関する問題は、少し低い結果でした。特に、記述式の問題の正答率が低い傾向がありました。生徒質問紙では、友達と協力したり、人の役に立ちたいという項目で高い結果でしたが、家庭で計画を立てて学習する生徒の割合や家庭での学習の時間が少ない、ゲームやスマホを等の時間が長いという課題が見受けられました。

#### 《強み・弱み》

「国語」では、スピーチ原稿の表現を適切なものに直す問題や、行書の特徴を問う選択問題などの正答率が高かったです。一方で、資料から必要な情報を探し出し、それを踏まえて文章を書く問題に課題が見られました。「数学」では、「数学的な知識・技能を問う問題」については、全体的によくできていました。領域別では「図形」が得意、「関数」が苦手な生徒が多いようです。また、記述式の問題について、無解答率が高かったことは、現在の入試問題に十分対応できない可能性があります。質問紙の結果より数学に対して肯定的（好き・大切・社会に出たときに役立つ）な意見を持つ生徒が多い傾向でした。「理科」では、基礎的な語句や一問一答式の問題に対する正答率が高い傾向でしたが、実験結果から考察したり、課題解決の方法を問われる記述問題に対しては正答率が低い傾向でした。また、無回答率が高かったです。自分の考えを簡潔にまとめ、文章で表現することを苦手としている生徒が多いと考えられます。

生徒質問紙では、授業でのタブレット等の使用状況では、「ほぼ毎日使用している」と答えている生徒が全国平均の2倍以上で、積極的にICTを活用して学習している様子がうかがえます。一方で、自己の認識や他人との関わりについての質問では、自己肯定感や自己有用感が低い傾向にあります。中でも、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」との質問には、「当てはまる」と回答した生徒が全国の平均よりも約10ポイント低く、自分を肯定的に捉えることに対して遠慮がちであったり、他人からの評価を実際以上に低く思い込んだりと、本校の生徒の抱える自信のなさがうかがえました。

### 【指導の充実に向けて】

- ☆国語に関しては、資料から読みとる力を身に着けるために、調べ学習など、生徒が自ら調べ、まとめられるような活動を取り入れて行きます。また、日頃から読書をするなど文章に触れ、文章を書く機会を持つことが大切なため、朝の読書活動や授業中に多くの機会を設けます。ご家庭でもぜひ読書をしていただければ幸いです。
- ☆数学に関しては、今後も学習内容を定着させるための継続した反復学習を大切にするとともに、思考力や表現力を高めるために、お互いの考え方を交流させたり、論理的にまとめ、発表する場面を増やしていきます。
- ☆理科に関しては、実験の考察を書く段階で、文の骨組みを提示し自分の判断に対する根拠を文章化していくよう努めていきます。また、文章化を繰り返す行うことで、考え方や表現の方法を確実に身に付けていくよう努めます。
- ☆「読み解く力」をつけていくために、朝の読書活動をはじめ、国語科を中心に各教科で、文章や資料を読み取り、相手とのやりとりから理解を深める時間を設けるなど、思考し表現する授業の実践に努めます。
- ☆家庭学習習慣の定着を、学校と家庭が協力して進めます。